

## 52. 生後1年間に於ける乳児の被服に関する研究 (第2報)

—東北以北及び関西以西に於ける実態—

東京家政学院短大 薬科喜代治

井上 益子

岡野 和子

○伊藤 若子

1. 研究の目的, 生後1年間に於ける乳児の被服の実態を調査し, 衣生活の合理化をはかるための基礎とし, 又家庭科カリキュラム編成の示唆を得ることを目的とする。

2. 方法, 前回は関東地区をとりあげて報告したので, 今回は引き続き, 東北以北及び関西以西を選んだ。調査方法は質問紙法により, 回答は多項選択の形式による。その結果を, 地域別及び世帯主の収入別による。被服の品種, 持数, 被服材料の繊維及び織物別, 自家製, 既製の使用度について集計, 考察を試みた。

3. 成果, 品種は30種目に及び, 総持数は, 前回報告の関東地区の半数に近く, 地域差がうかがわれる, 収入別による持数差は僅かであり, 被服材料においては, 繊維の選択の必要度の高いものとみられる品種についてみると, 上着は, 木綿, 羊毛, 絹の順に用いられ, 肌着は

木綿のみ、おむつカバーは、羊毛が約半数を占める。自家製、既製の使用度は、関東地区と同様、既製品がやや多い結果が得られた。

以上より考察すると、乳児の衣生活に関しては、地域収入、趣味、形態、慣習などに左右されることなく、比較的合理的にいとなまれていることが判明したのでその結果を報告する。